

哲風会通信

2017. 11 vol.71

過ぎ易かった秋も終わり、冬が近づいてきました。ここからさらに寒さが増してきますが、くれぐれも風邪など引かぬようご注意ください。風邪だけでなく、寒暖差によるアレルギーやお風呂でのヒートショックなど様々な症状が引き起こされることがありますので、対策を練っておきましょう。



歯科医院で起こる偶発症

先日患者さんに問診をしていた時の話ですが、患者さんから「話は必要ないから早く治療をしてよ!」と、言われました。初めて来院された患者さんで、詰め物が取れてしまった患者さんでした。患者さんからすると取れてしまった詰め物を付けるだけの簡単な処置なのに、なんで自分の病気の話や飲んでいる薬の話をしなければいけないのか解らなかつたのだと思います。しかし私たち歯科医師からすると、患者さんの情報が少ないまま治療を行う事はとても危険なことなのです。そこで今回は歯科治療の時に起こることが多い、偶発症について皆様にお話したいと思います。

神経性ショック・迷走神経反射

歯科治療時の痛み刺激などが原因となり、脳内の血液循環が悪化することによって引き起こされます。患者さんは貧血症状を起こし、血圧の低下や徐脈を引き起こすことがあります。顔色が悪くなったり吐き気や冷や汗などが出ます。

神経性ショックは歯科治療の偶発症の中で最も頻度が多いと言われてはいますが、通常は足を高くして横になることで改善することがほとんどです。

過換気症候群

歯科治療に対する極度の不安や緊張感から呼吸数が増加し、呼吸困難や窒息感を感じます。症状がひどくなると手指の知覚異常やしびれ感が現れ、手指が硬直する場合があります。

過換気症候群は浅く何度も呼吸をすることによって起こる為、深呼吸することで改善することがほとんどです。深く息を吸い込んで、一度呼吸を止めゆっくりと吐き出すことが大事です。歯科治療だけでなく極度の緊張感によって起こることがありますので、皆さんも対処法を覚えておくと良いでしょう。

血圧上昇

歯科治療時は不安感や恐怖感などの精神的なストレスで平常時より血圧が上昇していることがあります。さらに歯科治療時に使う局所麻酔薬にはエピネフリンという血管収縮薬が入っているためにさらに血圧を上昇させてしまいます。急激な血圧の上昇は脳出血や狭心症、不整脈などを引き起こす可能性がありますので患者さん自身でも平常時血圧を知っておくことが重要になります。



低血糖ショック

糖尿病の患者さんで歯科治療の前に食事を取らずにいると、血糖値が低下してしまい動悸や冷汗、悪心、意識混濁、昏睡などの症状が現れることがあります。糖尿病のかたは歯科治療の前に食事を取ることを忘れないように心がけてください。

抜歯後出血

歯を抜いた後に一度出血が止まっても家に帰ってから再び出血することがあります。原因としては、血液疾患や血小板の異常があったり、ワーファリンや抗血小板薬などの出血が止まりにくい薬を飲んでいたりすることによります。私が大学病院に勤務していた時も、抜歯後の出血のために何人かの患者さんが入院して止血処置や輸血を受ける事態になったことがあります。



まとめ

今回記載した偶発症はほんの一部です。歯科治療時にはまだまだたくさんの偶発症が起こる可能性があります。簡単な処置だと考えていても大きな偶発症に繋がってしまう事があります。患者さんは歯科医師や歯科衛生士、歯科助手に自分の体の病気や飲んでいる薬など隠さずにお話してください。そうすることでより安全な治療を受けることができます。万が一偶発症が起こってしまった場合にも、患者さんの病気を把握していることで迅速な対応を取ることができます。

これからも患者さんの安心と安全のために精一杯頑張っていきます。

今月の通信担当

理事長の武蔵です。小学3年生から野球スポーツ少年団に入っていた息子が6年生になって試合も全て終わり卒団することになりました。チームのみんなで頑張って全県大会にも一度出場することが出来ました。強いチームではなかったのですが楽しく最後まで続けてくれたことをうれしく思います。中学に行っても野球を続けたいと言っているのでプロ野球選手、メジャーリーガーを目指して頑張ってもらいたいものです。



医療法人 哲風会
むさしデンタルオフィス

〒010 - 0912
秋田市保戸野通町4 - 8
TEL:018-853-8214
フリーアクセス:0800-800-8461

医療法人 哲風会
ちづ歯科クリニック

〒018 - 1605
南秋田郡八郎潟町川崎字昼寝
233 - 1
TEL:018-875-2801